

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ

2021-22 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市朝日 1 丁目 2-29 シグママンション朝日 B 棟 105 号 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2021-22 年度国際ロータリーテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
SERVE TO CHANGE LIVES

第 25 回例会 NO. 2546

2022 年 1 月 26 日

【 故 金見和子さんのペット 】



【さきちゃん】

■司会進行

加藤智生 SAA



◆点鐘 12時30分
渡邊慎司会長

◆Rソング 斉唱
「それでこそロータリー」



◆出席 会員 42名 ◆出席率 69.23%
出席 27名 ◆前々回出席率 78.94%
欠席 15名 ◆修正後出席率 81.57%

◆四つのテスト

田口理紗会員



◆欠席者【敬称略】

石井文子・叶川博章・佐藤丈夫・阪中昌司・
嶋津正和・鈴木秀幸・趙 亜南・鶴岡大治・
中野麻美・林田謙治・藤野宏治・宮寺順子

ホームページ <https://kisarazueast-rc.jp>

木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 慎 司
幹 事 吉 田 和 義
編 集 大 岩 も え

国際ロータリー第 2790 地区

RI 会 長 シェカール・メータ
地区ガバナー 梶 原 等
ガバナー補佐 鈴 木 荘 一

◆誕生日祝い
平野秀和 (1/26)



◆結婚記念日祝い
有島敏夫 (1/25)

■会長挨拶・報告

渡邊慎司会長



皆さんこんにちは、コロナウイルス感染者が急激に増え続けていますが、ここに出席の会員の皆さんは、日頃から感染対策を万全に講じていると思います。もし、感染しやすい場所などに行った方は出席をお控え願いたいと思います。感染者がこの会場にいないければ感染する心配はないので、今後も自己管理を十分にしてください安全に例会を行いたいと思います。

本来ならば休会にして事が過ぎるのを待つのが得策かもしれませんが、ロータリークラブは感染対策を万全に講じているから感染者を出さずに活動できるのだと、主張していきたいと思っています。今日はチャーターメンバーで

ある有島会員が卓話を行います、今まではタイミングが悪く卓話がキャンセルになってしまいましたが、今回は皆様のご協力により実施できます。

次年度のR I会長をご存知でしょうか。カナダ・オンタリオ州にあるウィンザー・ローズランド・ロータリークラブ会員であるジュニア・ジョーンズ会長エレクトです。R Iとして初めての女性会長となります。1月20日に次年度の地区ガバナーに向けた講演をオンラインでライブ配信し、2022-23年度の会長テーマ「イマジン ロータリー」を発表しました。ジョーンズ氏は講演の中で、世界にもたらせる変化を想像して大きな夢を描き、その実現のためにロータリーの力とつながりを生かすよう呼びかけました。

彼女はロータリーの力とつながりを生かした自身の体験として、昨年アフガニスタンからの米軍撤退が進む中、一人の会員から、ある若いアフガニスタン人の平和活動家を国外退避させるために力を貸してほしいと頼まれたそうです。しかし、最初はどのようによいかわからなかったものの、「ロータリーの不思議な力 (magic of Rotary)」を頼りに、数年前に出会った元ロータリー平和フェローに連絡。1日も経たないうちに、その活動家は退避者リストに加えられ、間もなくヨーロッパ行き飛行機に乗ることができたそうです。

当クラブも次年度に向けて準備が着々と進んできています。次年度理事の方々や委員長になられる方々も今後、会議や活動計画書の作成がありますので、早めの準備で臨んで頂きたいと思います。

1月号のロータリーの友、内外よろず案内のページに、「親日の国、タイ・ミャンマー・カンボジア・ベトナムでロータリアンの友達をつくりませんか?」と呼び掛けている、第3350地区の飯田ガバナーエレクトが投稿した記事が掲載されています。姉妹クラブや姉妹地区の締結などを呼びかけていますが、このような機会を活用することによって、現地のロータリアンと交流を深め、その地域の問題についての支援をすることも出来るかもしれないなと思いました。

また先日の千葉新聞に、駐日パキスタン大使館と木更津市が、友好交流促進を目的に書簡を交換したという記事が掲載されていました。パキスタンでは教育を受けることが出来ない子供たちが未だに多く、二人に一人が学校に通えない状態です。その国の現状を知るには現地の状況を知っている人に聞くしかありません。そういった人たちとまずは繋がりを持つ事が、国際奉仕をする上で大変重要だと思います。

ロータリークラブの特徴として、国際的な支援が各クラブで出来ます。また、補助金も活用する事になって、クラブ自体の負担も軽減することができます。無理に国際奉仕をする必要はありませんが、やはり自分達から行動することによって、良いめぐりあわせがあると思いますので、心の隅に国際奉仕について留めておいて頂きたいと思います。

■幹事報告

吉田和義幹事



1. 幹事報告

- 1) 2021-22 年度 RLI 推進委員会より「RLI 10 周年を祝う集い」の日程変更のお知らせが届いておりますので
- 2) 米山記念奨学会より「米山功労クラブ感謝状」が届いておりますので回覧いたします。

2. 他クラブからのお知らせ

- 1) 木更津 RC・富津中央 RC・袖ヶ浦 RC より「例会変更のお知らせ」が届いておりますので回覧いたします。
- 2) 富津中央 RC・上総 RC・袖ヶ浦 RC・君津 RC より「週報」が届いておりますので回覧いたします。

3. その他のお知らせ

- 1) 本日、会員満足度アンケートを配布しておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。
記入後、事務局までよろしくお願いいたします。

4. 回覧

- ・ 2021-22 年度 RLI 推進委員会より「RLI 10 周年を祝う集い」の日程変更のお知らせ
- ・ 富津中央 RC・上総 RC・袖ヶ浦 RC・君津 RC より「週報」

■委員会報告

◆ニコニコボックス報告・出席報告

親睦出席委員会 近藤直弘会員



◇渡邊慎司会長

ポールハリスフェローを頂きありがとうございます。皆さんの感染予防対策の徹底で乗り切りましょう。

◇大隅義一会員

ポールハリスフェロー第4回の表彰を受けました。

◇平野秀和会員

本日 74 回目の誕生日を迎えました。これからも健康に留意して行きたいと思います。

◇竹内正守会員

結婚記念日に素敵なお花をありがとうございました。妻から喜びの写メが送られていました。

◇有島敏夫会員

結婚記念日のきれいな花束を頂きありがとうございます。家内も喜んでおります。又、卓話をさせていただきます。

■例会アワー

担当：吉田和義幹事



◆卓話者

有島敏夫会員



テーマ

「ロータリー雑感 Part II」

当クラブでは充実した例会が続いていますが、今年度の渡邊慎司会長は必ずロータリーの話をされています。そして週報には毎週ロータリー情報を詳しく掲載しています。たいへん勉強されてロータリー会員に知らせ続ける努力は並大抵のことではなく素晴らしいことです。また、山田会員はパストガバナーとして地区内随一の R・I 通で例会で RI 関連の情報を会員に説明され、ややこしい情報を理解してもらう努力されています。用語や規定など情報は多種多様ですが、ロータリー手帳の『ロータリー関連資料集』が小冊子ながら十分な情報が入っていますのでぜひ利用して下さい。『ロータリーの友』も情報の宝庫です。

前回の要約

当クラブの特色としては①活気がある②人材が多様でバランスが良い③楽しい例会、の3つがあり、それらが創立当時から受け継がれてきていることを話しました。1960年代の高度成長時代、君津に八幡製鉄所が進出しました。日本のロータリーも拡大方針を進め木更津にも、もう一つ新クラブを作ろうという事になりました。木更津 RC で若手の中心だった三平正家氏が、JC 出身者を中心に 20 名を引き連れてこの東 RC を 1968 年（昭和 43 年）6 月 26 日に創立しました。木更津 RC からのキーメンバーに地元や進出企業の人材を加え 33 名でスタートしました。平均年齢 40 才そこそこで活気に溢れた認証状伝達式が木更津中央高校講堂で盛大に挙行されました。この大イベントでは大企業幹部や地元の旦那方も協力一致で汗を流しました。現在の人材豊富で活気あるクラブの伝統となって続いています。初代榎本武雄会長が「楽しい例会づくり」を提唱し、歴代会長も唱え続け現在に及んでいます。当初からロータリーの方針に忠実、出席は厳格でした。家族親睦会は賑やかでなごやかに、ゴルフ愛好会も盛んで囲碁同好会もありました。地元への奉仕活動も活発に続けられ、同年行事の節目ごとに大きな奉仕が実行されてきました。第 20 代の清水会長は四国の坂出東 RC と横断道路の縁で姉妹クラブ契約の締結を行い、親しい関係が続いています。2011~12 年度には当クラブの山田修平会員が 2790 地区ガバナーに就任し、地区大会をここアカデミアホールで盛大に行いました。

当クラブ創立は高度成長時代で会員数も当初の 33 名から 88 名まで増加しましたが、その後のバブル崩壊、景気低迷の時代となり半減しました。会員増強の努力が続けられ、女性会員も活躍しています。

ロータリーの奉仕について

これから話すことが本日の卓話で私がチャーターメンバーとして聴いていただきたい部分となります。内容はロータリーの奉仕という事に関連して、聞いた事、読んだこと、教わったことなどから私の気に入っている言葉や先人の教えを偏見や独断が多いと思いますが話してみます。決して皆さんに意見を押し付けるつもりはありません。あとで何かのヒントになることでもあればと思います。

ロータリーの本質にかかわること、他の団体とはどこが違うのかということ、皆さんの気になっていることがいろいろあると思います。適切なお答えをする知識も能力もありませんので、不十分であることをお許し下さい。

先日、地区の青木忠茂職業奉仕委員長が来訪されました。卓話で P. ハリス以降のロータリーの奉仕の理念の発展について話されました。

「理念」とは不変の完全な価値のある考え方、ということです。ロータリーでは、個人の利益追求だけでなく、仕事が継続的に利益をもたらす顧客を確保することによって事業を発展させようという方向に転換していきました。ロータリーが広まっていく過程で「奉仕の理念」が

論じられるようになったのです。この考え方を 1910 年代のアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱しました。彼はミシガン大学で販売学を学び、卒業後自身が販売活動で実績を挙げ、ビジネススクールを創って経営学を教えました。今でいうマーケティング販売管理です。ロータリーの職業奉仕の中核となった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に基づくサービス学の概念を経営学と捉えて教えました。ジェルドンの奉仕理念は継続的な事業の発展のためには自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図をもって事業を営むことが大切で、資本家が利益を独占するのではなく従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えました。このようにして米国のロータリーでは「超我の奉仕 (Service above self)」 「最も多く奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who service best)」 ハーバート・テラーの「4 つのテスト」などが奉仕の理念による行動指針となりました。こういうロータリーの奉仕の哲学は決議 23—34 として記載されました。決議 23—34 では第 1 条に『ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」—の哲学であり、これは「最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである』と奉仕理念が説かれています。この条文を（故）越部平八郎パストガバナーは財団奨学生に対するオリエンテーションで次のように易しく説明されました。「だれでも自己の利益、つまり自利を図りたいという欲望があるはずで、反面、人のために役立ちたいという奉仕の欲求も意識的、無意識的を問わず誰の心にも湧き上がってくる感情でしょう。そして両者は共存する可能性が極端に少なく、いや寧ろ対立する要素を数多く内包している。そこで心は悩み、両社が闘争をはじめます。決議文はその「闘争」を和らげるものがロータリーの人生哲学だと言っているのです」と言われました。

ロータリーの奉仕は会員個人個人の心を基にして職業を営み社会に貢献する "I serve" が特色です。他団体の "We serve" で皆一緒に元気よく奉仕をするのと違うのです。ロータリーでも理念について論争があり、1917 年に意見の合わなかった会員が脱会してライオンズクラブを創りました。

ロータリーの奉仕の理念の流れを見てきましたが、この様な考え方は米国で出来たのかというと必ずしもそうではありません。我が日本ではもっと昔からそのような考えがありました。古くから日本では天地自然を大切に祀る神道があり飛鳥時代に仏教が伝承して、聖徳太子、後には空海や最澄などが利他の心の大切なことを勧めました。中国の儒教も受け入れられて「修身齐家治国平天下」が政治の基本と考えられました。商業が盛んになった江戸時代の近江

商人は「三方善」(売り手善、買い手善、世間善)を心得として広く商いを行いました。ちなみに現代の大商社の伊藤忠、丸紅などは近江大阪で始まっています。特に石田梅岩(1985~1744)は京都で神道・仏教・儒教を土台としたいわゆる「石門心学」を講じて、実践道徳の庶民教育に努めたのです。心学とは哲学です。この石田梅岩については「ロータリーの友」1月号に大阪学院大学の森田健司教授が現在のCSR SDGsとの関連を詳しく述べています。米国で奉仕理念が論じるよりも200年も前のことで、日本人の精神の深さと先進性が素晴らしいものと再認識するものであります。

日本のロータリー

1920年に日本に初めてロータリークラブが出来ました。米山梅吉が東京RCを創立し昨年100周年祝いました。その後、全国に拡がりましたが戦争で中断し、1949年にRIに復帰して現在に至っています。米山梅吉は「ロータリーは人生の道場である」「入りて学び、出でて奉仕せよ」と唱えて、例会に出席して発想の交換をしながら、奉仕と友情を深めることを奨めました。ロータリークラブは全国に拡がっていきました。そのなかで米国流の奉仕の理念を踏まえながら、次第に日本古来の「利他」の心が結びついて、外国とはひと味違う日本のロータリアンの風土が形成されて行きました。日本のロータリアンの考え方を先人ロータリアンの具体的な発言から拾い上げてみます。

当クラブ創立の時、当時の広沢ガバナー(所沢RC)は伝教大師最澄の言葉は「一隅を照らす。これ国の宝なり」また、「積善の家には必ず余慶あり」はロータリーの「最もよく奉仕するもの者、最も多く報いられる」と同じ言葉だと述べられました。私が初めて出会ったロータリーの心でした。その後、前橋RCの前原勝樹ガバナーは、「もし、善意というものがなければ、ロータリーはただの社交クラブである。職業奉仕という施しにすぎず、国際奉仕は外交でしかない」と、当時のRI会長ブランドホルワ氏に手紙を書いて、いたく感銘させたという事です。前原さんは「ロータリー入門書」というすぐれた本を出しています。前原さんの言う「善意」とは、人間同士の思いやりの心であると言うのです。その後、タイ国出身のピチャイ・ラクタルRI会長のモットーは「慈愛の種を捲きましょう」でした。総じて日本や東洋では「心」という事を大切に、強調しています。

当クラブ7代会長、重城良造さんは、就任初例会で「ロータリーには哲学があります。それは仏教の利他の心と同じです」と話されました。重城さんと面識のある会員も多数居られると思いますが、重城さんの「利他」は聞かれた方も多いと思います。私は重城さんの幹事をさせて頂きましたので、重城さんの言葉や行動は今に至る迄私の人生に大きな影響を与えています。たいへん優秀な方で旧制静岡高校で仏教研

究会に入り、修繕寺に合宿して座禅を組みました。東大薬学部を卒業後、陸軍の薬剤将校となり終戦、公職に就けず、郷里高柳でやなぎ薬局を開業しました。子息二人は国立の医大を出て、現在の重城病院を開院し、重城さんは当初の事務局長もされました。こういう重城さんに親しくしていただいた事は私の一生の宝物です。ロータリーでは年齢や業種を超えて広く友人知人得ることができます。他クラブ、諸会合、地区委員会などに積極的に参加して知己を増やしてください。特に地区委員会では優れたロータリアンに出会えます。私は30年以上前に地区ロータリー財団委員会に3年在籍しました。そこでは県内有力企業の経営者の皆さん方と夕方から夜9時ごろまで熱心に奉仕活動をしました。当時一緒に仕事をした方々は(故)越部平八郎パストガバナー、土屋亮平パストガバナー、石井亮太郎パストガバナーなどで、その後も親しくさせて頂いています。ぜひ皆さんも諸会合、地区大会、そして地区委員会など積極的に参加して下さい。

現在のロータリーは世界中に拡がっています。120万人の会員がいます。RIは組織の維持拡大に力を入れています。近頃では自分たちがやり易いように運営したり、それぞれの習慣に合わせてたりして、規則を緩めているように見えます。規定や方針も複雑になって、肝心の「奉仕の理念」の推進が弱くなり、ロータリアンに深く浸透しているのでしょうか。

「不易流行」という言葉があり、変えてはならないもの、変えていくべきものがあります。ロータリーでは「奉仕の理念」は不易で変えてはならないものです。日本のロータリーに連続として伝わっている利他の心は不易です。RIで色々の方針が出されますが、流行の部分でも節度のある運営が望まれます。私たちは特に不易の部分大切にしていきたいものです。ロータリーは奥が深いです。

長々と固い話になりました。私の言っておきたいことを言いましたので、皆さんは軽く聞いておいて下さい。あとで何か考えるきっかけにでもなれば幸いです。

とにかくロータリーを楽しみましょう。”ENJOY ROTARY”です。ロータリーを理解するには、先ず楽しむこと。例会出席を続ければ健康になります。皆さんもぜひ90才以上を目指して下さい。

ご清聴、ありがとうございました。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘 13時30分 渡邊慎司会長